

集团的活動や就業体験等を通して命の大切さを学ばせる体験活動
山口県立高森高等学校

学校の概要

① 学校規模

- 学級数：9学級
- 生徒数：349人
- 教員数：47人
- 活動の対象学年：1年生・119人
2年生・119人

② 体験活動の観点からみた学校環境

- 本校が設置されている岩国市玖珂町、周東町は山口県東部の人口2万5千人の玖西盆地に位置し、JR岩徳線その他、国道2号線や山陽自動車道が通り、比較的交通の便に恵まれている地域である。
- 山口県玖珂郡部内唯一の普通高校であったが、平成14年度からの県全日制課程の通学区の改編により、隣接する岩国市と同一の通学区域となり、生徒の進学先の広域化が進む。
- 平成15年4月に高森みどり中学校を開校し、山口県初の併設型中高一貫教育を開始する。

③ 連絡先

- 〒742-0300
岩国市玖珂町1253番地
- 電話：0827-82-3234
- FAX：0827-82-3247
- ホームページ：
<http://www.takamori-h.ysn21.jp>
- 電子メール：
takamori-h@ysn21.jp

体験活動の概要

① 活動のねらい

- 高森ピア・セミナーなど自然の中での集团的活動
 - ・ PAの手法を用いた体験学習を実施し、内部進学生と外部進学生との早期の融和を図るとともに、豊かな人間性や社会性の育成をめざす。
 - ・ 大自然の中で自分を見つめなおし、自然を通して「生命への畏敬」「他者への配慮」などの心を育成する。
- インターンシップ（1年）や東京キャリアアップツアー（2年）などの活動
 - ・ インターンシップや東京キャリアアップツアーを行うことにより、勤労観・職業観を育むとともに、人に対する「思いやり」や「いたわり」の気持ちに気付かせ、また、自分の命や他人の命の大切さについて考えさせる。
- ボランティアなどの社会奉仕活動
 - ・ 生徒の豊かな心や思いやりのある温かい心を育てるボランティア活動を、全校的な活動として継続的・計画的に実施するために「高森ボランティアチーム」を設置し、社会性や協調性を培うことをめざす。

② 活動内容と教育課程上の位置付け

- 自然の中での集团的活動
(学校行事41単位時間)
- 職業・就業に関わる体験活動
(総合的な学習の時間24単位時間、学校行事12単位時間)
- ボランティアなどの社会奉仕活動
(学校行事4単位時間)

1 活動に関する学校の全体計画

○ 活動のねらい

- 高森みどり中学校は開校当初より、OBSの手法を活用した自然体験活動「自己再発見キャンプ」を実施しており、高校でもこの体験活動を活かすため、第1期生の高校への進学に合わせ、平成18年度から集团的活動「高森ピア・セミナー」を1年次の年度当初に実施し、内部進学生と外部進学生の早期の融和と良好な人間関係の基盤の形成を図った。

また、コミュニケーション能力の向上を図るとともに、大自然のなかで、人や動物、植物などとふれあい、自然の摂理を体得するとともに、一つひとつの生命の重さ、不思議さを考えさせ、「生命への畏敬」「他者への配慮（思いやり）」などの心を育成することをめざした。

- 中高一貫を踏まえたキャリア教育を推進するため、中学校1年次から、計画的なキャリア体験学習（職業・就業に関わる体験活動）を実施し、高校1年次において「インターンシップ」、高校2年次に「東京キャリアアップツアー（東京研修旅行）」を行い、勤労観・職業観を育むとともに、生産者・消費者などとの接触を通して、人に対する「思いやり」や「いたわり」の気持ちに気付かせ、また、介護体験や保育体験を通して、自分の命や他人の命の大切さについて考えさせる。
- 生徒の豊かな心や思いやりのある温かい心を育てるボランティア活動を、全校的な活動として継続的・計画的に実施するために「高森ボランティアチーム」を設置し、社会性や協調性を培うことをめざす。

○ 全体の指導計画

活動の名称	実施学年	活動内容	教育課程上の位置付け	期間
高森ピア・セミナー	1年	<ul style="list-style-type: none"> PA的内容（TAP [徳地アドベンチャープログラム] MTBオリエンテーリング 野外炊飯 学習オリエンテーション キャリアガイダンス フレンドシップタイム、ボランティアタイム など 	・学校行事	①4月17日（2時間） ②4月30日～5月2日（37時間） ③11月29日（2時間）
インターンシップ	1年	・市内近郊及び周辺市町の病院、福祉施設、小学校、動物園などで就業体験	・総合的な学習の時間	10月8～10日（24時間）
東京キャリアアップツアー	2年	・東京都内の企業（JICA等）や大学（医・薬学部等）訪問	・学校行事	10月8～11日（12時間）
高森ボランティア活動	1, 2年	・地域一斉清掃作業	・学校行事	3月11日（4時間）

2 活動の実際

○ 事前指導

1年次生は、高森ピア・セミナーについては新入生オリエンテーション、事前の全体集会において、生徒部長・学年主任からピア・セミナーの意義や目的について指導した。学年主任を含めた1学年の担任2人が事前に国立山口徳地青少年自然の家（山口市徳地船路668）にて研修を受け、復伝後、それぞれのHRにおいて、各担任が指導した。その後、4月17日、国立山

口徳地青少年自然の家の所員2人により、アイスブレイキングなどPA的な活動による人間関係づくりの活動を行い、4月30日からの準備を行った。

また、インターンシップの実施については、総合的な学習の時間に業種を中心に11班に分かれ、それぞれ担当の教員から心構えなどの指導を受け(4時間)、前日には全体指導の中で生徒部長からマナー指導や、特に「命の大切さ、命を守る」を実感できる職場については他の職場以上に細心の注意を払うよう促した。

2年次生は東京キャリアアップツアーの訪問企業や大学の選定・検討のため、総合的な学習の時間に4~6人の23班に分かれ、2~3班に1人の教員がついて指導に当たった。

○ 活動の展開

□ 高森ピア・セミナー



事前指導[アイスブレイキング①]



事前指導[アイスブレイキング②]



大自然の中で野外炊飯



友達に命綱を託して(ハイエレメント)

□ インターンシップ



病院にて



消防署にて



薬局にて

□ 東京キャリアアップツアー



防災会館にて[地震の怖さ①]



防災会館にて[地震の怖さ②]



明治大学にて

□高森ボランティア活動



JR高森駅清掃活動



交通安全キャンペーン



地域一斉校外清掃

○ 事後指導

・ 高森ピア・セミナー

1月29日(木)、国立山口徳地青少年自然の家の所員2人による人間関係づくりの活動(2時間)を行うとともに、LHRで感想や反省、課題などを記入させた。

・ インターンシップ、東京キャリアアップツアー

実施後にLHRで感想や反省、課題などを記入させた。命に関わるさまざまな事業所や企業を訪問し、多くの感銘を得たようだ。自分の在り方生き方を考えるきっかけとなり、今後の進路選択に生かされるであろう。

・ 生徒の感想から(一部)

□高森ピア・セミナー

- ・ 一人だと乗り切れないこともみんながいると乗り越えられるので友達を大切にしようと思った。
- ・ 動植物を含めて、みんなかけがえのない命なんだから、自分の命はもちろん、他者の命も大切にしていけないといけないと思った。
- ・ 生き物は全てが支え合い協力し合って、生活が成り立っているのだと感じた。
- ・ 自然の怖さ・大切さを知り、もっと命を大切に生きるべき。

□インターンシップ

- ・ 治療されている患者さんを見て命のもろさと力強さを感じた。(病院)
- ・ 病院で赤ちゃんと母親を見たとき生命のすばらしさを感じた。(病院)
- ・ ヒヨコを抱いたときは「この子を守ろう」と強く思った。(動物園)
- ・ 幅広い将来性、無限の可能性を見せる小学生を見たとき、彼らを社会全体で大切に守っていかなければならないと感じた。(小学校)

□東京キャリアアップツアー

- ・ 煙の中を避難する体験で、体は本物の煙にはすぐやられてしまい、弱いものだと思った。(池袋防災会館)
- ・ 小さな注意などが生命を救うと思った。(池袋防災会館)
- ・ ビデオを見ているとき、日本はとても裕福な生活をしているなと思い、貧しくて栄養失調で死んでしまう人もいるので、もっと生命を大事にしなければいけないと思った。(JICA)

3 体験活動の実施体制

○ 学校支援委員会

(1) 生徒部(特別活動係)

(2) キャリア支援部(進路指導部)

(3) 人間関係づくり推進プロジェクト(生徒部・保健体育部)

(4) 学校支援委員会(年2回開催)

- ・ 地元小中学校長、市教育委員会支所長、地元商工会会長、介護施設関係代表ほか
- ・ 第1回学校支援委員会 平成19年9月13日(水) 13:30~15:40

- ・ 第2回学校支援委員会 平成20年2月18日（月）10:00～12:00

所管の生徒部特別活動係を中心に、キャリア支援部、保健体育部、各学年とよく連携をとり、計画を進めていった。

学校支援委員会の構成員は、上記の通りであり、多くの助言・支援をいただいた。

○ 配慮事項

特に注意をしているのが班編成である。人間関係づくりが苦手な生徒が年々増加してきている中、1人班から離れたり、あるいは班から外れたりしないよう、細心の注意を払った。また、校外、あるいは他の市町村に行くので、安心安全にも充分注意を払った。ボランティア活動においても傷害保険等にその都度加入して、万が一に備えた。

4 体験活動の評価の工夫と指導の改善

体験活動をしたあとにはレポート・感想文を作成させ、それを教員がまとめ、全教職員に配付する。特にインターンシップは総合的な学習の時間として実施しているため、年度末に評価している。

体験活動をする場所については、インターンシップの就業場所が広範囲にわたっているため、特に新着任の教員が場所の事情に疎く、事業所の営業内容や場所などよく研究して指導に当たる必要がある。

5 活動の成果と課題

○ 成果

中学校では、生徒同士の良好な人間関係をより深めるためには、日常生活の中でもそれを意識した体験活動の指導の工夫が不可欠であるという共通理解のもと、各教科や学活、部活動などの教育活動に取り組み、授業中の発表、学活の取組、学園祭への参加などさまざまな場面で積極性がみられ、多くの成果を挙げてきた。

また、高等学校では、高森ピア・セミナーを実施してから、生徒はクラスを問わず交流の場面が見られ、それぞれのクラスにおいても積極的な発言・活動が見られる。また、部活動にも多くの生徒が加入し、積極的に活動している。

今回、高等学校では、体験活動に「生命への畏敬」「命の大切さ」をテーマに加え取り組んできたが、高森ピア・セミナーにおいては、天候の急変、マウンテンバイクの活動、野外炊飯などをおして自然の怖さ、ありがたさを感じ、また「一人だと乗り切れないこともみんながいると乗り越えられる」「生き物は全て支え合い、協力し合って生存している」など、一人ひとりがそれぞれ感じ取っていた。また、インターンシップや東京キャリアアップツアーにおいても、事業所での体験や大学・企業訪問を通して、「仕事の尊さ」と「命の大切さ」を実感している。

○ 課題

生徒がさまざまな体験活動で実感したことが、今後の生活でどの様に活かせるか、いつまで継続するかなどよく見守る必要がある。さいわい「いじめ」や「暴力」など問題行動はこの1年間皆無であり、秩序ある学校生活を送れたものと思われる。

しかし、学級の中の人間関係の診断（Q-U診断）を10、11月に実施したところ、高校2年次生は昨年よりやや下がり、学級生活満足度が47%（全国平均25%）であり、1年次生は29%（全国平均25%）と高校2年生に比べさらに低い。それぞれの学年の「不満足度」をよく分析し、今後の学校生活に活かし、より良い学校生活を送らせたい。